

第 71 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(令和 4 年 5 月調査)

～景況感は 2 期連続で改善。先行きは悪化の見通し～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が 0.8（前回調査比 11.7 ポイント上昇）と **2 期連続で改善**し、3 期ぶりにプラスに転じた。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」はいずれも改善し、「人員・人手」はプラス幅が拡大した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲6.5（前回調査比 19.1 ポイント上昇）、製造業が 15.8（前回調査比 14.1 ポイント上昇）、卸・小売業が▲22.6（前回調査比 1.0 ポイント下落）、サービス業が 14.3（前回調査比 15.5 ポイント上昇）と、**卸・小売業は小幅ながら悪化、建設業、製造業、サービス業は大幅に改善**となり、サービス業は 3 期ぶりにプラスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲13.1（前回調査比 0.9 ポイント下落）、村山北部が 20.4（前回調査比 28.8 ポイント上昇）、最上が 2.3（前回調査比 2.3 ポイント上昇）、置賜が 1.8（前回調査比 19.9 ポイント上昇）、庄内田川が 7.5（前回調査比 19.5 ポイント上昇）、庄内飽海が▲3.0（前回調査比 8.3 ポイント上昇）と、**村山南部は悪化**となったものの、**その他の 5 地域は改善**となり、村山北部、置賜、庄内田川はプラスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲10.6（今回調査比 11.4 ポイント下落）と **悪化の見込み**となっている。

【特別調査】

- **夏季ボーナスの支給動向**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 61.3%と、前年に比べ 7.8 ポイント上昇し、6 割を上回った。
- **春季以降の賃金改定動向**について尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」）は、全業種で 52.3%と前年に比べて 7.3 ポイント上昇し、5 割台となった。
- **新型コロナウイルス感染症の事業への影響**について、事業活動全体における平常時（コロナ禍前）の経営状況を 100 とした場合の今年度の業績見通しをたずねたところ、全業種でみると「80～100」が 61.3%と最も多く、次いで「50～79」が 20.2%となっている

令和 4 年 6 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I. 県内企業の業況	1
1. 概況	1
2. 業種別の動向	2
(1) 業種別の概況	2
(2) 業種別 D I 値の動向	3
① 建設業	3
② 製造業	5
③ 卸・小売業	7
④ サービス業	9
3. 地域別の動向	11
(1) 地域別の概況	11
(2) 地域別 D I 値の動向	12
① 村山南部	12
② 村山北部	13
③ 最 上	14
④ 置 賜	15
⑤ 庄内田川	16
⑥ 庄内飽海	17
II. 景気の天気予報図	18
III. 特別調査	19
1. 夏季ボーナスについて	19
(1) 支給予定動向	19
(2) 支給予定額	21
2. 春季以降の賃金改定動向について	23
3. 新型コロナウイルス感染症の事業への影響について	24
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	25
<参考資料 II : 調査の概要>	25

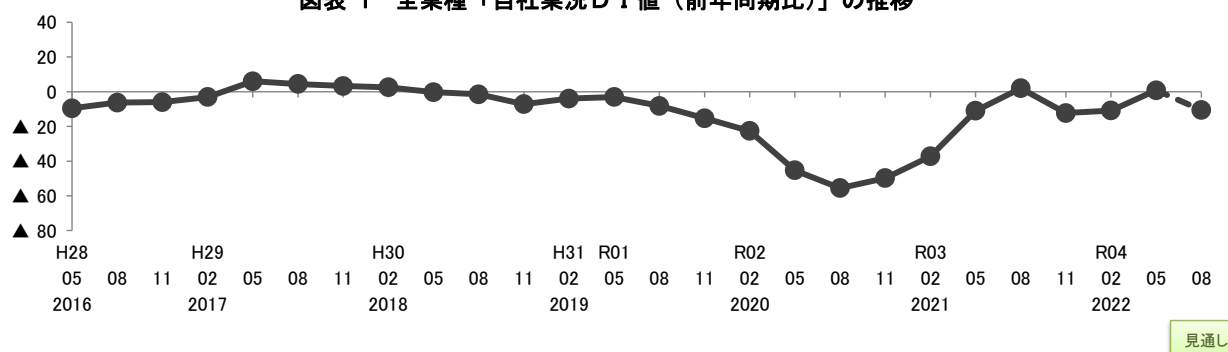
I. 県内企業の業況

1. 概況

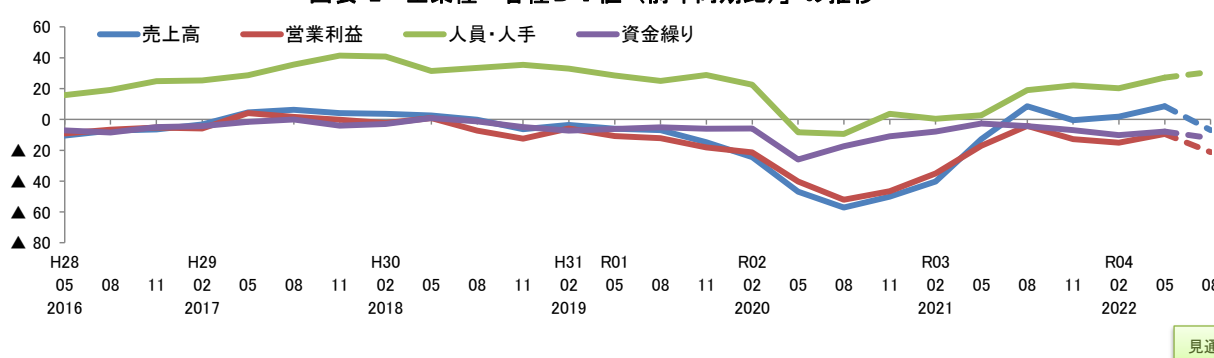
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が0.8（前回調査比11.7ポイント上昇）と2期連続で改善し、3期ぶりにプラスに転じた。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」はいずれも改善し、「人員・人手」はプラス幅が拡大した。

先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲10.6（今回調査比11.4ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。新型コロナウイルス感染の第6波が長期化することへの懸念に加え、ウクライナ情勢がもたらす影響にも注視していく必要があり、慎重な見通しは今後も続くものとみられる。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 03. 05 (n=409)	▲ 11. 0	(26. 2)	▲ 39. 6	▲ 12. 7	▲ 17. 1	2. 7	▲ 2. 7
R 03. 08 (n=393)	2. 0	(13. 0)	▲ 16. 2	8. 6	▲ 4. 1	19. 0	▲ 4. 3
R 03. 11 (n=398)	▲ 12. 3	(▲ 14. 3)	▲ 15. 5	▲ 0. 5	▲ 12. 8	22. 1	▲ 7. 0
R 04. 02 (n=384)	▲ 10. 9	(1. 4)	▲ 9. 1	1. 8	▲ 15. 1	20. 3	▲ 10. 2
R 04. 05 (n=406)	0. 8	(11. 7)	▲ 28. 9	8. 6	▲ 9. 4	27. 1	▲ 7. 9
前回調査比	-	-	-	(6. 8)	(5. 7)	(6. 8)	(2. 3)
先行き見通し	▲ 10. 6	-	-	▲ 6. 9	▲ 21. 2	30. 8	▲ 12. 1
今回調査比	(▲ 11. 4)	-	-	(▲ 15. 5)	(▲ 11. 8)	(3. 7)	(▲ 4. 2)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

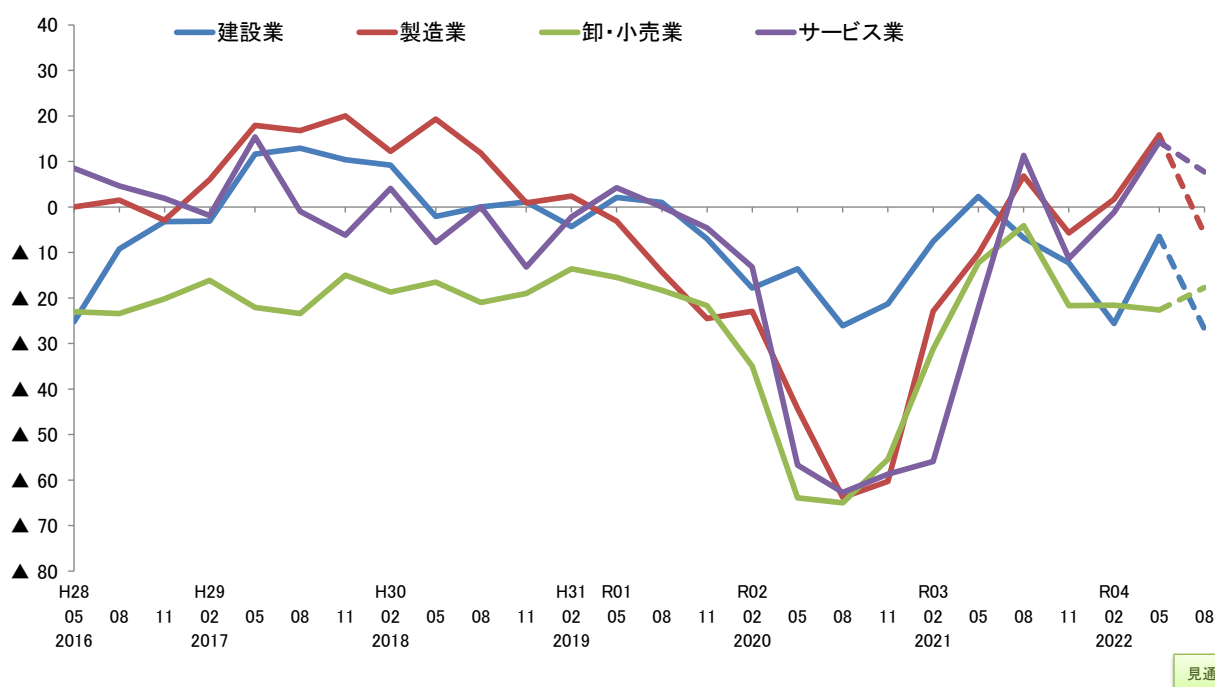
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、建設業が▲6.5（前回調査比 19.1 ポイント上昇）、製造業が 15.8（前回調査比 14.1 ポイント上昇）、卸・小売業が▲22.6（前回調査比 1.0 ポイント下落）、サービス業が 14.3（前回調査比 15.5 ポイント上昇）と、卸・小売業は小幅ながら悪化、建設業、製造業、サービス業は大幅に改善となり、サービス業は3期ぶりにプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、建設業、製造業、サービス業で悪化、卸・小売業で改善の見込みとなっている。

図表 3 業種別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 05 (n=409)	▲ 11. 0	2. 3	▲ 10. 3	▲ 12. 3	▲ 22. 2
R 03. 08 (n=393)	2. 0	▲ 6. 8	6. 8	▲ 4. 1	11. 3
R 03. 11 (n=398)	▲ 12. 3	▲ 12. 3	▲ 5. 7	▲ 21. 7	▲ 11. 3
R 04. 02 (n=384)	▲ 10. 9	▲ 25. 6	1. 7	▲ 21. 6	▲ 1. 2
R 04. 05 (n=406)	0. 8	▲ 6. 5	15. 8	▲ 22. 6	14. 3
前回調査比	(11. 7)	(19. 1)	(14. 1)	(▲ 1. 0)	(15. 5)
先行き見通し	▲ 10. 6	▲ 26. 8	▲ 5. 9	▲ 17. 7	7. 7
今回調査比	(▲ 11. 4)	(▲ 20. 3)	(▲ 21. 7)	(4. 9)	(▲ 6. 6)

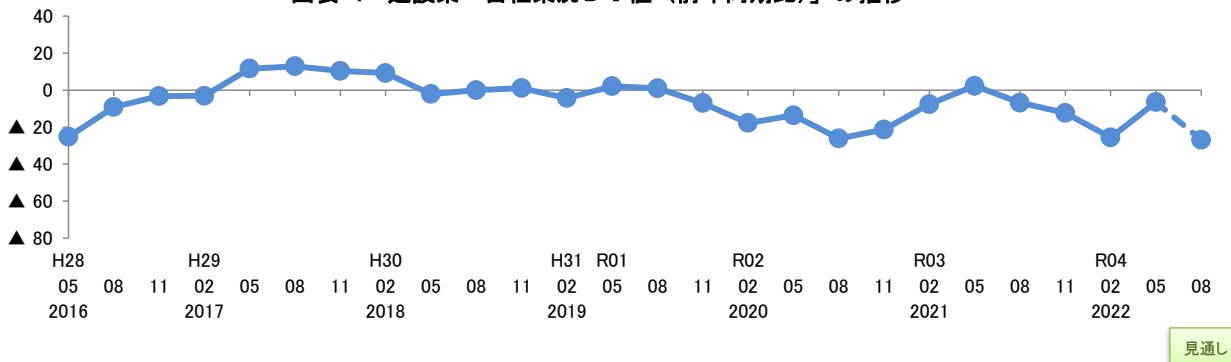
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

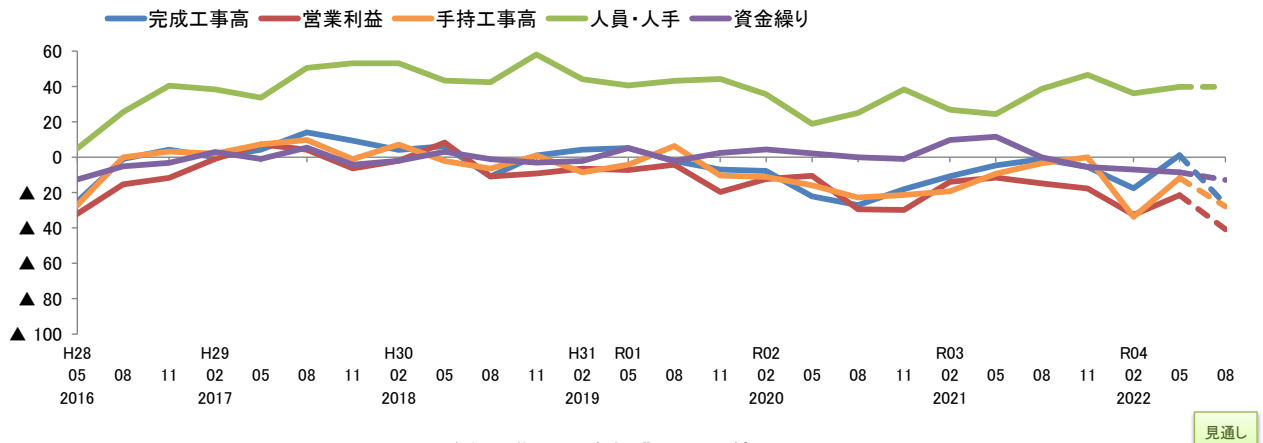
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲6.5（前回調査比 19.1 ポイント上昇）と、4 期ぶりに改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「資金繰り」は小幅ながら悪化となったものの、「完成工事高」「営業利益」「手持工事高」は改善となり、「人員・人手」はプラス幅が拡大した。各社のコメントからは、資機材の価格上昇や燃料費の高騰による利益率の低下を懸念している状況がうかがえる。また、資材の急激な値上がりや入荷遅れの発生は今後も続くと考えられるため、見積もりにも苦慮しているなどの内容もみられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲26.8（今回調査比 20.3 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
R 03. 05 (n=86)	2.3	(9.9)	▲ 37.6	▲ 4.6	▲ 11.6	▲ 9.3	24.4	11.6
R 03. 08 (n=88)	▲ 6.8	(▲ 9.1)	▲ 16.3	▲ 1.1	▲ 14.8	▲ 3.4	38.6	0.0
R 03. 11 (n=90)	▲ 12.3	(▲ 5.5)	▲ 23.9	▲ 5.6	▲ 17.7	0.0	46.6	▲ 5.6
R 04. 02 (n=86)	▲ 25.6	(▲ 13.3)	▲ 23.3	▲ 17.5	▲ 32.6	▲ 33.7	36.1	▲ 7.0
R 04. 05 (n=93)	▲ 6.5	(19.1)	▲ 41.8	1.1	▲ 21.5	▲ 11.8	39.8	▲ 8.6
前回調査比	-	-	-	(18.6)	(11.1)	(21.9)	(3.7)	(▲ 1.6)
先行き見通し	▲ 26.8	-	-	▲ 26.9	▲ 40.8	▲ 27.9	39.8	▲ 12.9
今回調査比	(▲ 20.3)	-	-	(▲ 28.0)	(▲ 19.3)	(▲ 16.1)	(0.0)	(▲ 4.3)

業界の声

Q. 今期の業況について

- 資機材の値上げや納期未確定の製品があり、工事に遅延が発生している。ロシア、中国の動向次第では今後さらなる値上げや品不足に陥る可能性がある。(村山南)
- 依然として資材の納期遅れや、材料等の値上がりが発生していて、見積後の実行金額が読めない。(村山北)
- 資材や燃料の高騰による影響が大きく、受注が増えても利益が上がらない。また、働き方改革・工事の週休 2 日の実施による人件費の増加、重機稼働率の低下により利益減少が避けられない。(最上)
- 中国のロックダウンの影響などで半導体・他部品が不足しているため、給湯器・トイレ等の納期が大幅に遅れる状況にある。そのため、現場がスムーズに動かない。(置賜)
- 原材料費の高騰や納期未定が続き、計画が延期または中止になる案件ばかり多い。(庄内田川)
- 公共、民間共に建築物件が激減している。また、設備機器(トイレ・ウォシュレット等)の調達が新型コロナの影響により困難となっている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

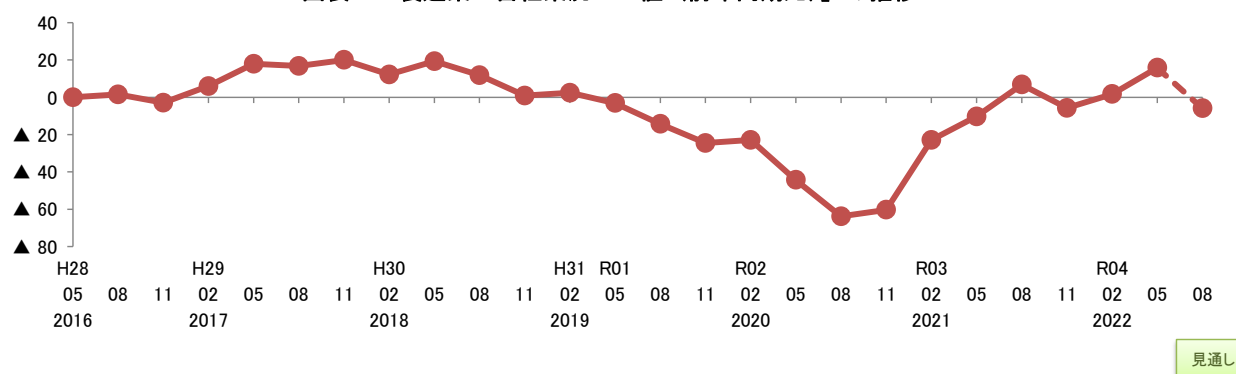
- 受注、完工はある程度確保できそうだが、利益については減収の可能性が高い。(村山南)
- 世代交代のため、高校生の雇用を再度検討し、経験者等の採用も検討する。(村山北)
- 重機・車両購入時の納期がかなり長いため(短いもので半年、長いと 1 年以上納期がかかる)、無理をしてでも必要な重機・車両は早く発注するように対応している。(最上)
- 繰越工事が増加し、年度始めは比較的現場は稼働している。今期は前期と同程度の受注が予想されるが、来期は見通しが不透明である。(置賜)
- 今後人員不足が深刻になり、人を確保しているところが受注を伸ばすとみている。(庄内田川)
- 業務の効率化に IT 技術等の活用、働き方の見直し、協力会社との連携協力などで利益の確保を図りたい。(庄内飽海)
- さらなる資機材の値上がりが予想され、人員不足もあり、現状を維持していくのか、規模を拡大または縮小するのか思案中である。(庄内飽海)

② 製造業

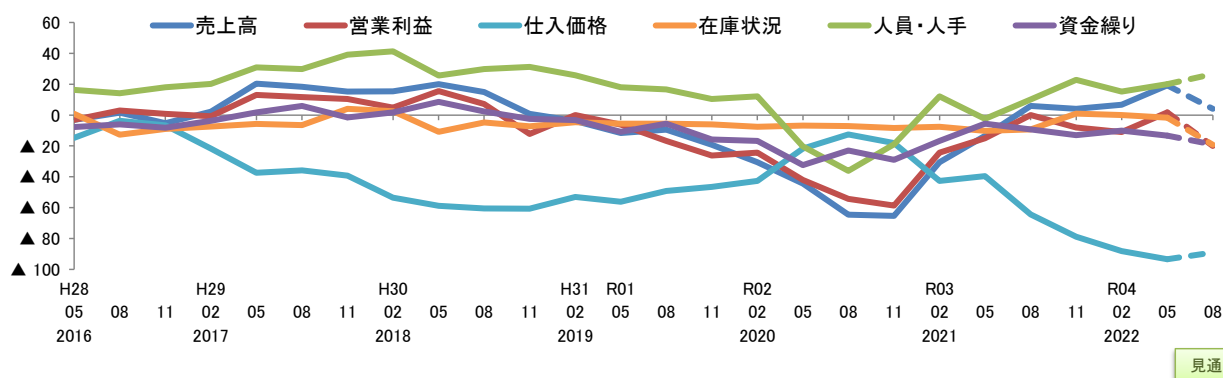
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は15.8（前回調査比14.1ポイント上昇）と2期連続で改善した。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」が改善した一方、「仕入価格」「在庫状況」「資金繰り」は悪化し、「人員・人手」はプラス幅が拡大した。各社のコメントから、半導体関連では需要の急増に伴い受注も増加しており、堅調な動きがうかがえた。一方で、他の製造分野では、特に輸入原料について、海外情勢や円安の影響を受けてさらに価格の高騰や納期の長期化が進んでおり、業況は厳しいとするコメントが多くみられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲5.9（今回調査比21.7ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業 利益	仕入 価格	在庫 状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 03. 05 (n=126)	▲ 10. 3	(12. 6)	▲ 29. 0	▲ 13. 5	▲ 15. 1	▲ 39. 6	▲ 10. 3	▲ 2. 4	▲ 5. 5
R 03. 08 (n=118)	6. 8	(17. 1)	▲ 8. 7	5. 9	0. 0	▲ 64. 5	▲ 9. 3	10. 1	▲ 9. 3
R 03. 11 (n=123)	▲ 5. 7	(▲ 12. 5)	▲ 4. 3	4. 1	▲ 8. 1	▲ 78. 9	0. 9	22. 8	▲ 13. 0
R 04. 02 (n=118)	1. 7	(7. 4)	0. 8	6. 7	▲ 11. 0	▲ 88. 2	0. 0	15. 3	▲ 10. 1
R 04. 05 (n=120)	15. 8	(14. 1)	▲ 17. 8	19. 2	1. 7	▲ 93. 4	▲ 1. 7	20. 0	▲ 13. 3
前回調査比	-	-	-	(12. 5)	(12. 7)	(▲ 5. 2)	(▲ 1. 7)	(4. 7)	(▲ 3. 2)
先行き見通し	▲ 5. 9	-	-	4. 1	▲ 20. 0	▲ 89. 2	▲ 19. 2	26. 6	▲ 19. 1
今回調査比	(▲ 21. 7)	-	-	(▲ 15. 1)	(▲ 21. 7)	(4. 2)	(▲ 17. 5)	(6. 6)	(▲ 5. 8)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 新型コロナ、ウクライナ情勢などにより原料や運賃の値上げで原価等が上がってしまっている。(村山南)
- 世界的なコロナウイルスの感染拡大の影響により原材料調達が困難となっており、生産に支障をきたしている。また、原材料高騰が続き、収益面での悪影響となっている。半導体関連事業については好調であるが、需要急増に対して材料メーカーが増産に追いついていない。(村山北)
- 新型コロナによる部品供給不足の影響で、受注先が生産調整を余儀なくされており、当社業績にも大きく影を落としている。現状で先行きが見通せない不安感を抱えている。(最上)
- 半導体関連は相変わらず好調、工作機械・リチウムイオン電池は好調が見込まれる。農機具関連は横ばい、重電関連はマイナス基調にある。(置賜)
- 円安なので輸出を伸ばしたいが、コンテナの確保など問題が多い。また、運賃から包装まで、値上がりしてくるので、当社の商品もどこかのタイミングで値上げを検討している。(庄内田川)
- 建築資材の原材料高騰により工事の延期、中止が多くみられ、受注環境も厳しくなっている。工期変更により工場加工、現場施工の工程がつかめず苦慮している。(庄内飽海)

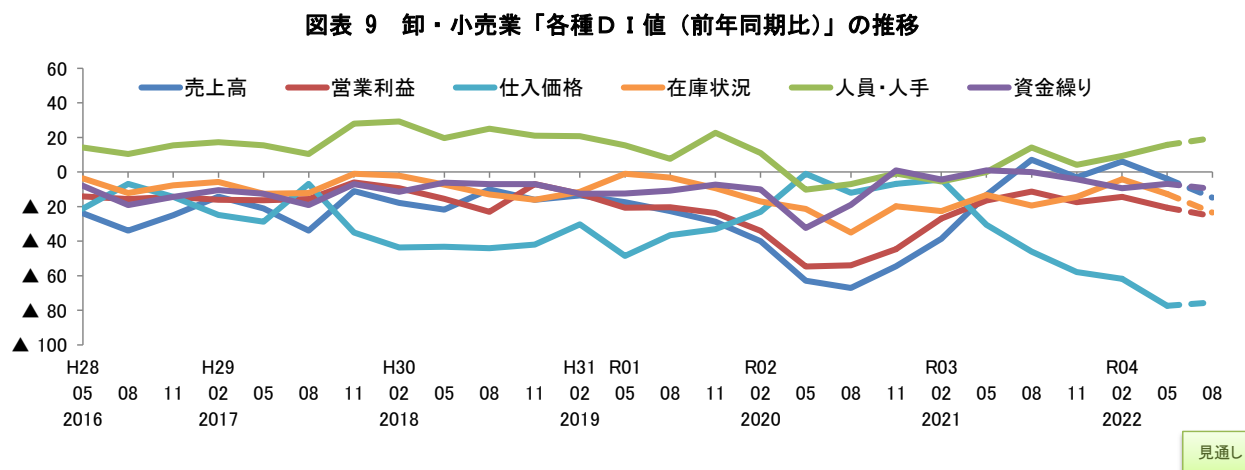
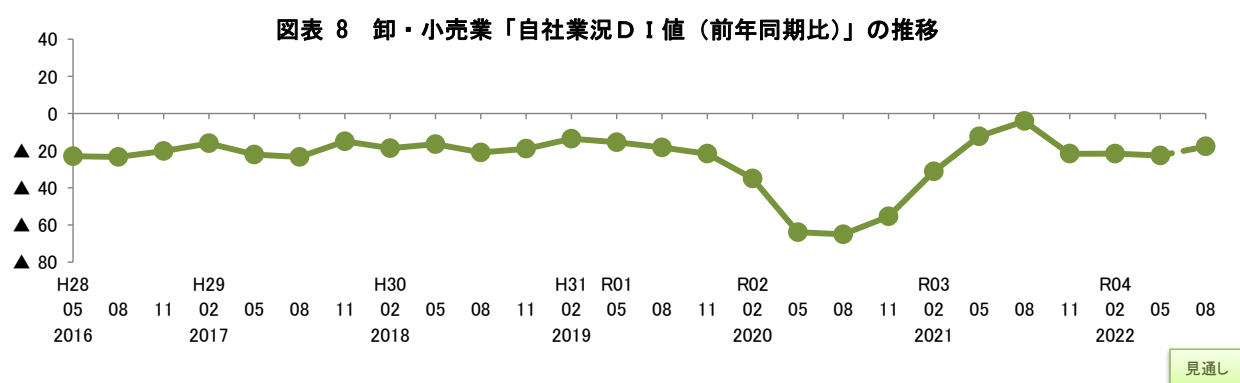
Q. 来期の見通しや対策等について

- 今後も原材料価格を注視し、製品価格の見直しおよび改廃を実施していく。(村山南)
- 来期も部材の調達困難、価格上昇は継続するとみており、調達方法の多様化、原価低減と販売価格アップ交渉など対策を講じている。(村山北)
- 外国人技能実習生の新規入国のめどが見通せず、中期生産計画の立案に苦労しており、既存実習生の在留期間延長などで対応している。(最上)
- 今後の人材確保のため、新人採用に力を入れている。また、中小企業にでもできる SDGs も積極的に取り組み支援している。(置賜)
- コロナ禍による需要の減少、原材料の価格上昇、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化の懸念から、厳しい状況が今後も予想される。(庄内田川)
- コロナ感染症・為替等により設備投資の鈍化がみられる。見当しはかなり厳しい。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲22.6（前回調査比 1.0 ポイント下落）と小幅ながら悪化となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「仕入価格」「在庫状況」の4項目が悪化となった一方、「資金繰り」は改善となった。「人員・人手」は2期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントからは、長引く半導体不足に加えて上海のロックダウンの影響も受けて、電化製品など一部の商品では依然品薄状態が続いていることがうかがえた。また、相次ぐ商品の値上げによって消費の動きが弱まるのではないかと、消費者の購買意欲の低下を不安視する内容が複数見受けられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲17.7（今回調査比 4.9 ポイント上昇）と改善が見込まれている。



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 03.05 (n=98)	▲ 12.3	(18.9)	▲ 37.6	▲ 13.2	▲ 16.4	▲ 30.6	▲ 13.3	0.0	1.0
R 03.08 (n=98)	▲ 4.1	(8.2)	▲ 22.4	7.1	▲ 11.3	▲ 46.0	▲ 19.4	14.2	0.0
R 03.11 (n=97)	▲ 21.7	(▲ 17.6)	▲ 20.4	▲ 3.1	▲ 17.5	▲ 57.8	▲ 14.4	4.1	▲ 4.2
R 04.02 (n=97)	▲ 21.6	(0.1)	▲ 12.4	6.1	▲ 14.4	▲ 61.8	▲ 4.2	9.3	▲ 9.3
R 04.05 (n=102)	▲ 22.6	(▲ 1.0)	▲ 33.0	▲ 3.9	▲ 20.6	▲ 77.4	▲ 12.7	15.7	▲ 6.8
前回調査比	-	-	-	(▲ 10.0)	(▲ 6.2)	(▲ 15.6)	(▲ 8.5)	(6.4)	(2.5)
先行き見通し	▲ 17.7	-	-	▲ 14.8	▲ 25.5	▲ 75.5	▲ 23.5	19.6	▲ 9.8
今回調査比	(4.9)	-	-	(▲ 10.9)	(▲ 4.9)	(1.9)	(▲ 10.8)	(3.9)	(▲ 3.0)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 半導体不足、上海ロックダウンにより一部の電気製品が品切れしており、納期が未定となっている。見通しがつかない状況である。(村山南)
- コロナの感染拡大に伴う自粛傾向が長引き、来店客数の減少が続いている。特に年配の方にその傾向が顕著で、土日休日の客数減に歯止めがかからない。(村山南)
- ウクライナ情勢、円安により仕入価格が高騰し、影響が出ている。電気料金の値上げは特に影響が大きい。(村山北)
- 複写機、プリンター、パソコン等は、コロナの影響で部品がなく、入荷してこない状況である。(最上)
- ロシア情勢によりガソリン、プラスチック製品の値上げが続いている。また、玉ねぎやジャガイモの高騰が利益を圧迫している。(置賜)
- 産直販売はコロナなどの影響をあまり感じないが、飲食の方は来客が減っている。産直で販売する総菜などで売り上げをカバーしている。(庄内田川)
- 地元販売は極端に落ち込んでいる状況が続いている。米の販売価格は下げ止まり、経費は掛かる一方でバランスが取れない。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

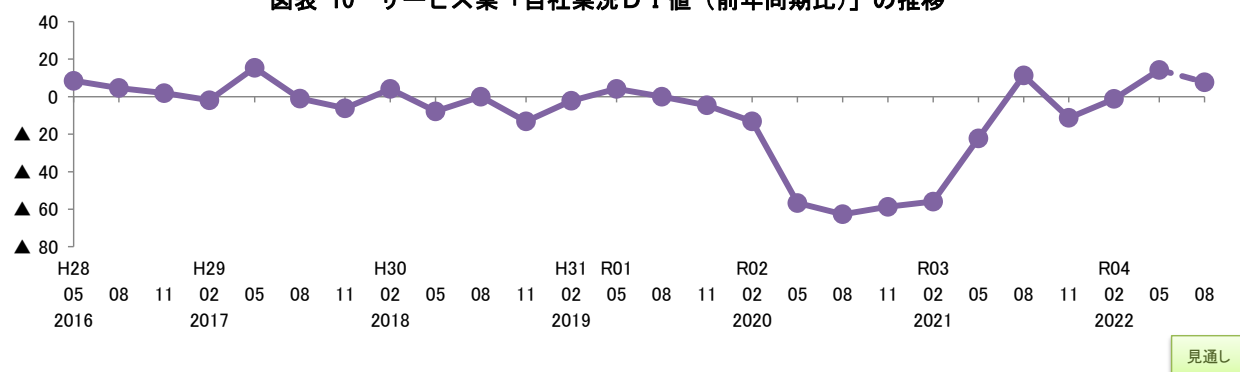
- 価格改定が実施され、今後の需給バランス動向を一段と注視していく必要性を感じている。(村山南)
- 価格上昇による売り上げの低下と住宅着工減少に伴う集客低下の影響で悪くなる。(村山北)
- 生産性を向上させるべく、社員の適正配置を検討している。新しい会計ソフトを導入し、AI を利用した省力化に取り組んでいる。(置賜)
- 輸入商材の価格上昇に伴い利益率が低下、今後国産品の価格にも影響が出ると思われる。(庄内田川)
- これからは県外からの来客も見込まれるが、資材等の値上げがあり、今後の価格設定に反映させざるを得ないため、売り上げに影響が出る可能性もある。(庄内田川)
- 個人消費の弱さは継続し、売り上げは前年対比 5%~10%の減少で推移するのではないかと思う。(庄内飽海)

④ サービス業

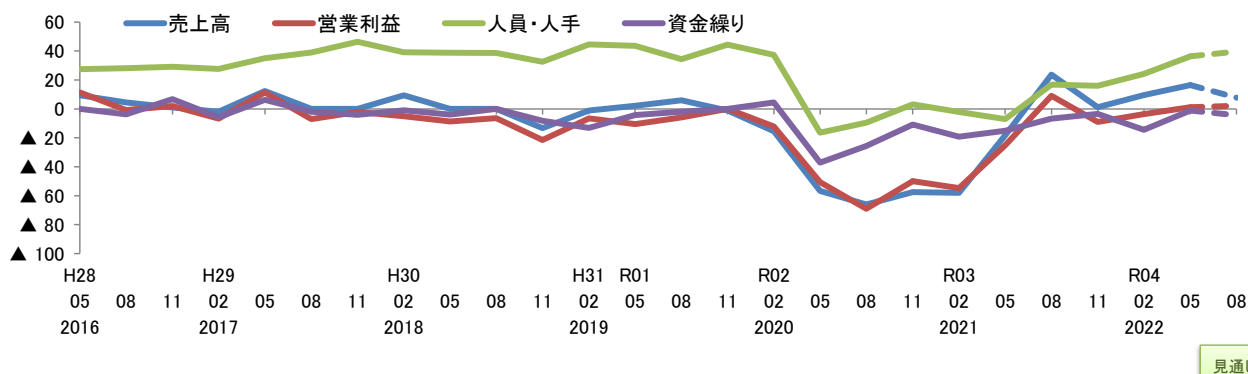
「自社の業況DI値（前年同期比）」は14.3（前回調査比15.5ポイント上昇）と2期連続で改善し、3期ぶりにプラスに転じた。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目で改善となり、「人員・人手」は2期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントから、連休期間にも人の移動への制限が緩和され、宿泊業などでは再び予約が戻りつつあるものの、団体客よりも個人単位の利用が多い傾向にあり、回復は緩やかに進むと見込んでいる状況がうかがえる。また、特に運送業において人手不足が深刻であり、ドライバーの確保が喫緊の課題となっている旨のコメントが目立った。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が7.7（今回調査比6.6ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
R 03.05 (n=99)	▲ 22.2	(33.7)	▲ 47.3	▲ 18.2	▲ 25.2	▲ 7.1	▲ 15.2
R 03.08 (n=89)	11.3	(33.5)	▲ 19.2	23.6	9.0	16.8	▲ 6.7
R 03.11 (n=88)	▲ 11.3	(▲ 22.6)	▲ 16.9	1.2	▲ 9.1	15.9	▲ 3.4
R 04.02 (n=83)	▲ 1.2	(10.1)	▲ 4.6	9.6	▲ 3.6	24.1	▲ 14.5
R 04.05 (n=91)	14.3	(15.5)	▲ 26.6	16.5	1.1	36.3	▲ 1.1
前回調査比	-	-	-	(6.9)	(4.7)	(12.2)	(13.4)
先行き見通し	7.7	-	-	7.7	2.2	39.6	▲ 4.4
今回調査比	(▲ 6.6)	-	-	(▲ 8.8)	(1.1)	(3.3)	(▲ 3.3)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 新型コロナの影響は薄れてきたが、ウクライナ情勢、物不足（半導体、部材、車輛等）があり、投資へ盛り上がり欠ける。（村山南）
- 物流業界では、コロナ禍以降、BtoB から BtoC へのシフトがみられ、宅配業者に荷物が集まる一方で、当社のような法人間輸送を中心に行っている事業者では、取り扱い物量が減少し、今後回復しないものと思われる。（村山南）
- 緊急事態宣言やまん延防止等特別措置が解除され、移動制限や自粛が緩和されたことにより航空利用客が回復するものと観測している。ただし、業務出張や観光形態が従前と変容しており、急激には回復せず、動きは緩慢になるとみている。（村山北）
- コロナ禍の影響は未だ二極化した状況が続いていると思う。ウクライナ情勢の影響では、燃料費の高騰、資材不足による車両の納期遅延などが続いており、特に燃料費の高騰は経営に大きな影響を及ぼしている。（置賜）
- 半導体不足による納期の大幅遅延、未定などが発生しているソフトウェア商品においては、大幅な値上げが散見される。（庄内田川）
- 港湾貨物量は増加しているが、コンテナ貨物は減少傾向にある。今後のロシアからのコンテナによる製材の輸入が継続できるかが懸念される。（庄内飽海）

Q. 来期の見通しや対策等について

- 急激な円安の影響も含めたコスト高が、企業生産活動の停滞につながり、広告市況が減退する兆しがある。来期についてはまだ見えない部分が多いが、厳しいような気配がある。（村山南）
- 航空利用客の回復と業績反映にはズレがあり、当面は現況のままの推移で厳しい局面は継続するとみている。（村山北）
- 来年秋稼働に向けて産廃処理施設の設置計画を進行している。（最上）
- 事業内容の改善、顧客満足度の向上に取り組む。（置賜）
- ウクライナの影響による物価上昇がエンドユーザーにどのように影響するか、見通し不明であることが不安である。（庄内田川）
- 人材確保が困難になっているため、賃金を上げて求人をしている。また人材派遣を活用している。（庄内飽海）

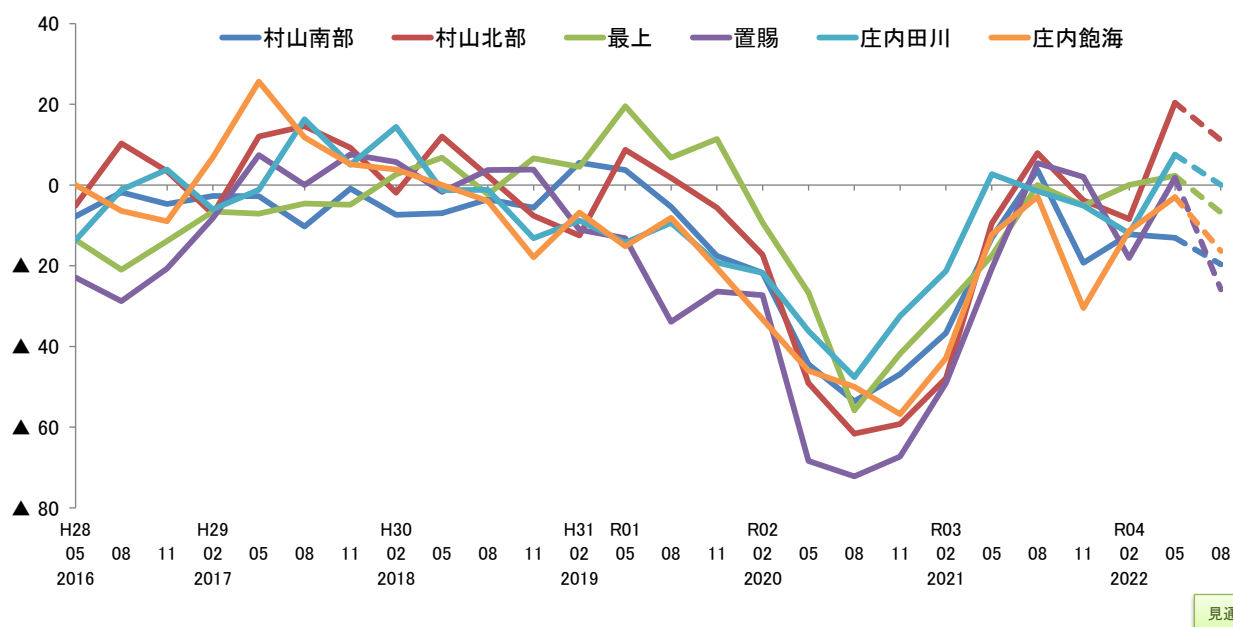
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲13.1（前回調査比 0.9 ポイント下落）、村山北部が 20.4（前回調査比 28.8 ポイント上昇）、最上が 2.3（前回調査比 2.3 ポイント上昇）、置賜が 1.8（前回調査比 19.9 ポイント上昇）、庄内田川が 7.5（前回調査比 19.5 ポイント上昇）、庄内飽海が▲3.0（前回調査比 8.3 ポイント上昇）と、村山南部は悪化となったものの、その他の 5 地域は改善となり、村山北部、置賜、庄内田川はプラスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、すべての地域で悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 03.05 (n=409)	▲ 11.0	▲ 13.1	▲ 9.5	▲ 17.5	▲ 20.7	2.7	▲ 12.3
R 03.08 (n=393)	2.0	3.7	7.9	0.0	5.4	▲ 1.5	▲ 2.9
R 03.11 (n=398)	▲ 12.3	▲ 19.3	▲ 3.8	▲ 5.1	2.0	▲ 5.1	▲ 30.5
R 04.02 (n=384)	▲ 10.9	▲ 12.2	▲ 8.4	0.0	▲ 18.1	▲ 12.0	▲ 11.3
R 04.05 (n=406)	0.8	▲ 13.1	20.4	2.3	1.8	7.5	▲ 3.0
前回調査比	(11.7)	(▲ 0.9)	(28.8)	(2.3)	(19.9)	(19.5)	(8.3)
先行き見通し	▲ 10.6	▲ 19.7	11.1	▲ 6.8	▲ 25.9	0.0	▲ 16.4
今回調査比	(▲ 11.4)	(▲ 6.6)	(▲ 9.3)	(▲ 9.1)	(▲ 27.7)	(▲ 7.5)	(▲ 13.4)

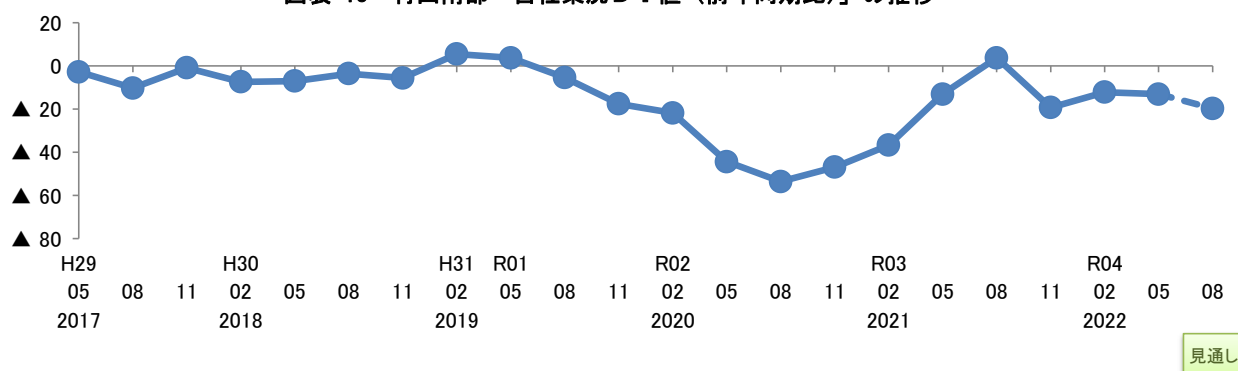
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

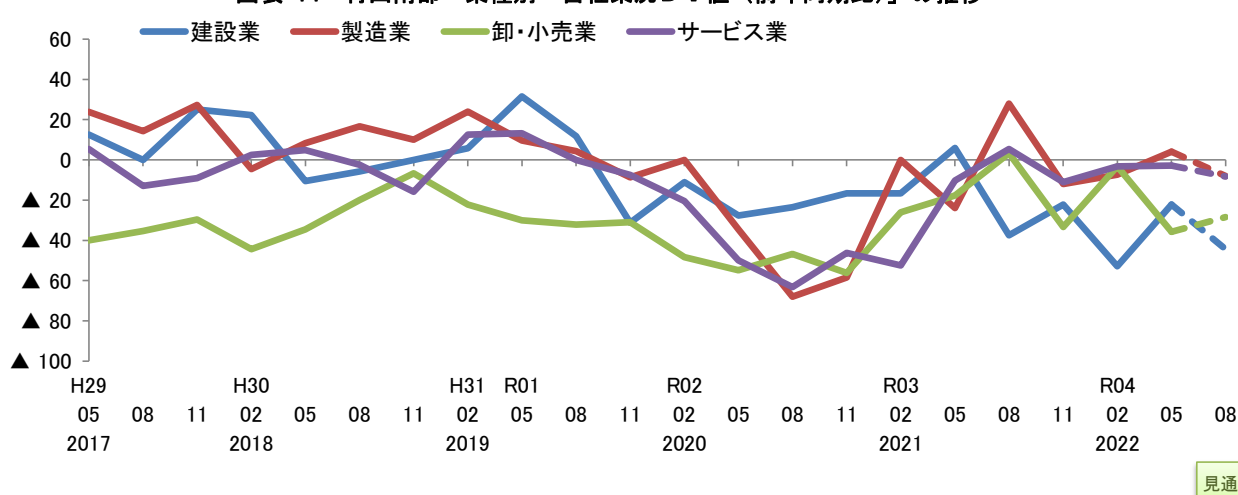
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲13.1（前回調査比 0.9 ポイント下落）と小幅ながら悪化となった。業種別にみると、卸・小売業は大幅に悪化、建設業と製造業は改善、サービス業はほぼ横ばいとなっている。製造業は D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲19.7（今回調査比 6.6 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

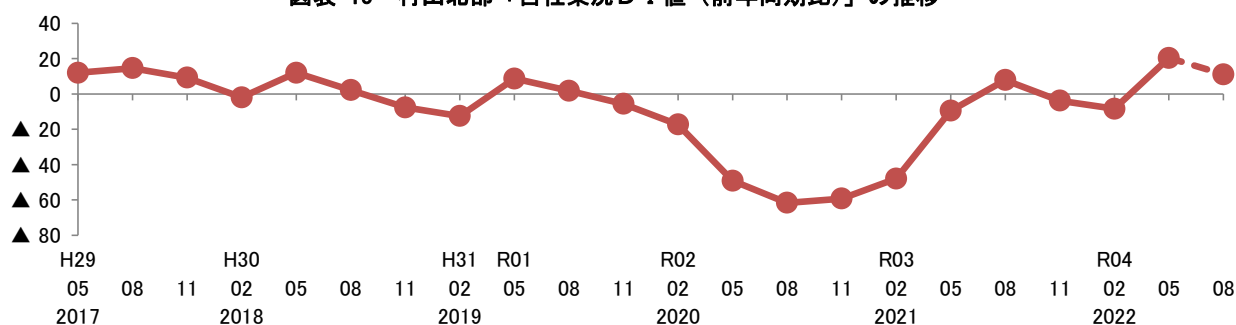
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 05 (n=115)	▲ 13.1	(23.6)	▲ 28.5	5.9	▲ 24.0	▲ 17.7	▲ 10.3
R 03. 08 (n=108)	3.7	(16.8)	▲ 16.5	▲ 37.5	28.0	3.3	5.4
R 03. 11 (n=109)	▲ 19.3	(▲ 23.0)	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 12.0	▲ 33.3	▲ 11.1
R 04. 02 (n=107)	▲ 12.2	(7.1)	▲ 18.3	▲ 52.9	▲ 7.4	▲ 3.3	▲ 3.2
R 04. 05 (n=107)	▲ 13.1	(▲ 0.9)	▲ 27.1	▲ 22.2	4.0	▲ 35.7	▲ 2.8
前回調査比	-	-	-	(30.7)	(11.4)	(▲ 32.4)	(0.4)
先行き見通し	▲ 19.7	-	-	▲ 44.4	▲ 8.0	▲ 28.5	▲ 8.3
今回調査比	(▲ 6.6)	-	-	(▲ 22.2)	(▲ 12.0)	(7.2)	(▲ 5.5)

② 村山北部

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 20.4（前回調査比 28.8 ポイント上昇）と 3 期ぶりに改善となった。業種別にみると、建設業、卸・小売業、サービス業は大幅に改善、製造業はほぼ横ばいとなっており、卸・小売業とサービス業は D I 値がプラスに転じた。

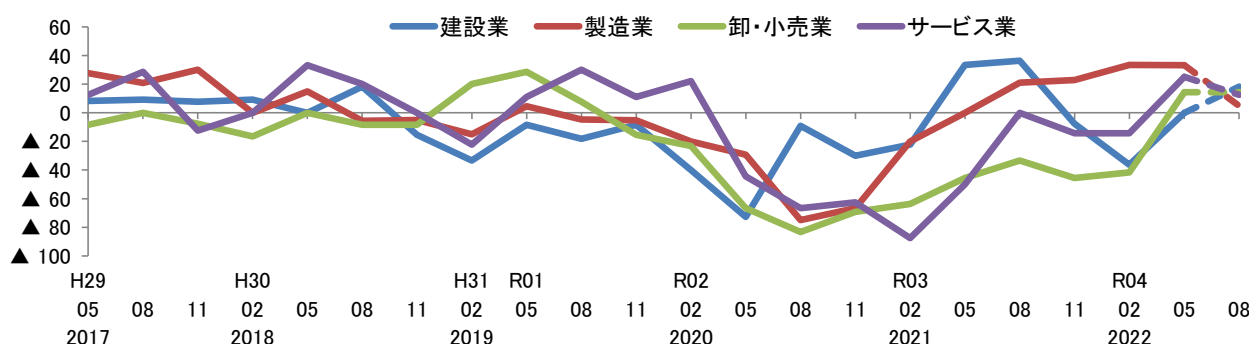
業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が 11.1（今回調査比 9.3 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 16 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

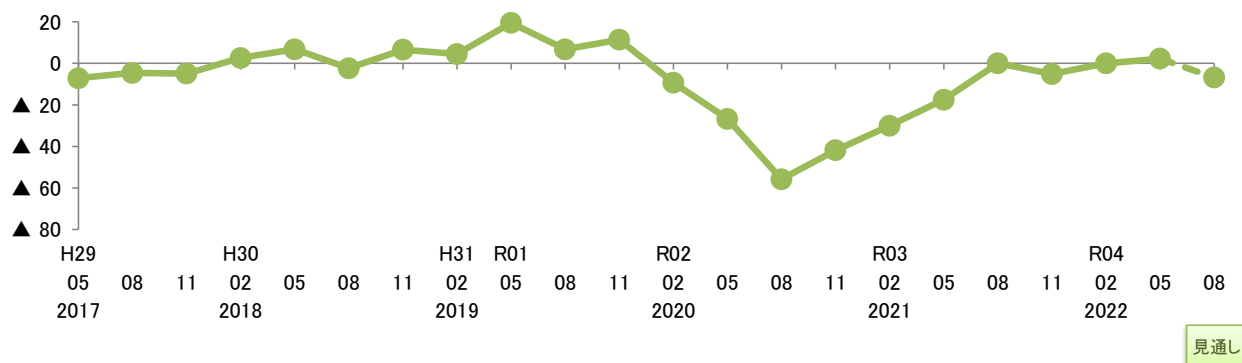
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 05 (n=53)	▲ 9.5	(38.4)	▲ 39.6	33.4	0.0	▲ 45.5	▲ 50.0
R 03. 08 (n=51)	7.9	(17.4)	13.2	36.4	21.0	▲ 33.4	0.0
R 03. 11 (n=53)	▲ 3.8	(▲ 11.7)	▲ 9.8	▲ 7.7	22.8	▲ 45.5	▲ 14.3
R 04. 02 (n=48)	▲ 8.4	(▲ 4.6)	3.8	▲ 36.4	33.4	▲ 41.7	▲ 14.3
R 04. 05 (n=54)	20.4	(28.8)	▲ 22.9	0.0	33.3	14.3	25.0
前回調査比	-	-	-	(36.4)	(▲ 0.1)	(56.0)	(39.3)
先行き見通し	11.1	-	-	18.2	4.7	14.3	12.5
今回調査比	(▲ 9.3)	-	-	(18.2)	(▲ 28.6)	(0.0)	(▲ 12.5)

③ 最 上

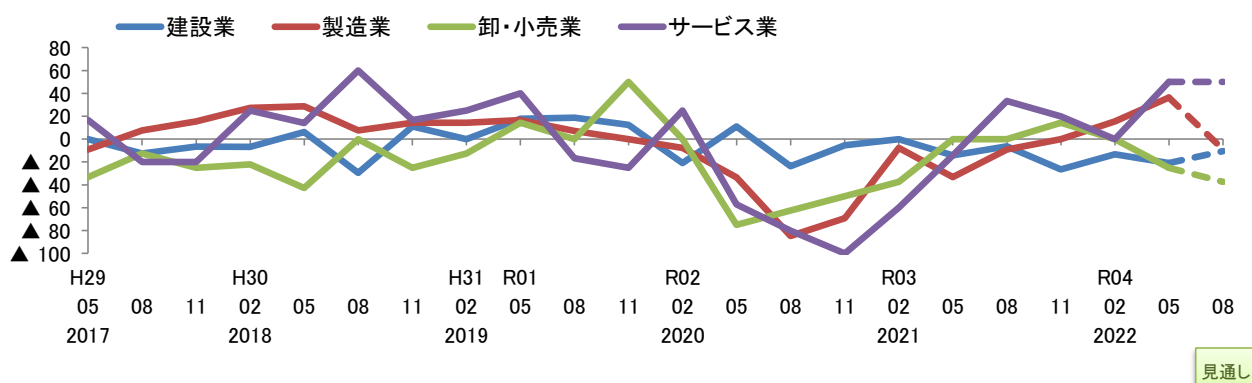
「自社の業況DI値（前年同期比）」は2.3（前回調査比2.3ポイント上昇）と2期連続で改善となった。業種別にみると、建設業と卸・小売業は悪化、製造業とサービス業は大幅な改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲6.8（今回調査比9.1ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 17 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

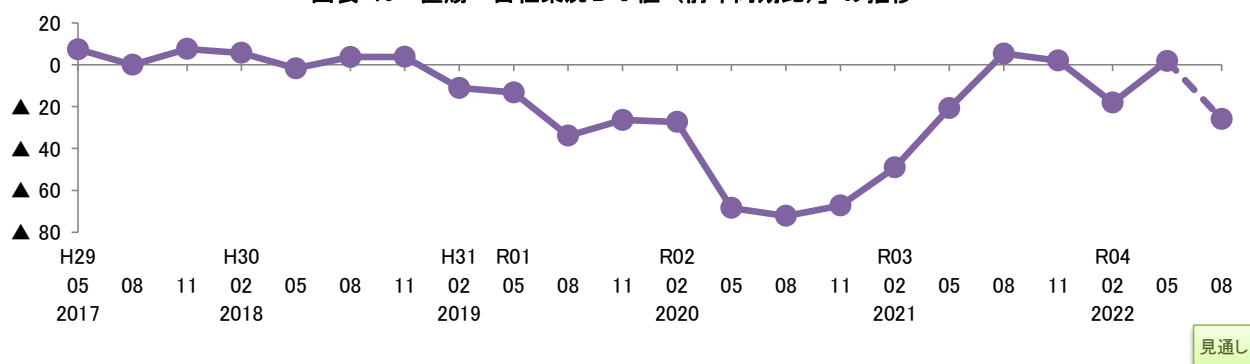
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 03. 05 (n=40)	▲ 17.5	(12.5)	▲ 40.0	▲ 14.3	▲ 33.3	0.0	▲ 14.3
R 03. 08 (n=41)	0.0	(17.5)	▲ 35.0	▲ 6.3	▲ 9.1	0.0	33.3
R 03. 11 (n=39)	▲ 5.1	(▲ 5.1)	▲ 14.6	▲ 26.6	0.0	14.3	20.0
R 04. 02 (n=39)	0.0	(5.1)	▲ 7.7	▲ 13.3	15.4	0.0	0.0
R 04. 05 (n=44)	2.3	(2.3)	▲ 15.4	▲ 21.0	36.4	▲ 25.0	50.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 7.7)	(21.0)	(▲ 25.0)	(50.0)
先行き見通し	▲ 6.8	-	-	▲ 10.5	▲ 9.1	▲ 37.5	50.0
今回調査比	(▲ 9.1)	-	-	(10.5)	(▲ 45.5)	(▲ 12.5)	(0.0)

④ 置 賜

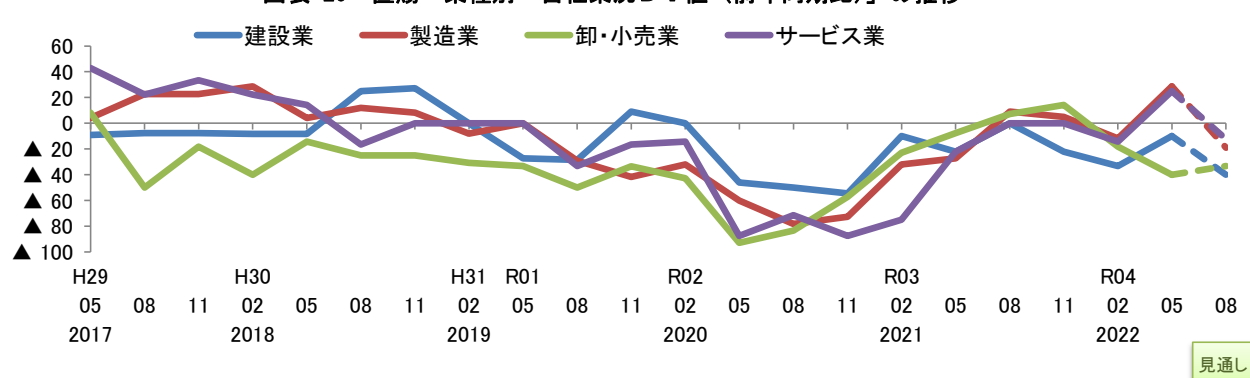
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 1.8（前回調査比 19.9 ポイント上昇）と 3 期ぶりに改善となり、プラスに転じた。業種別にみると、卸・小売業で悪化となったものの、建設業、製造業、サービス業で改善となっている。製造業とサービス業は D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲25.9（今回調査比 27.7 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

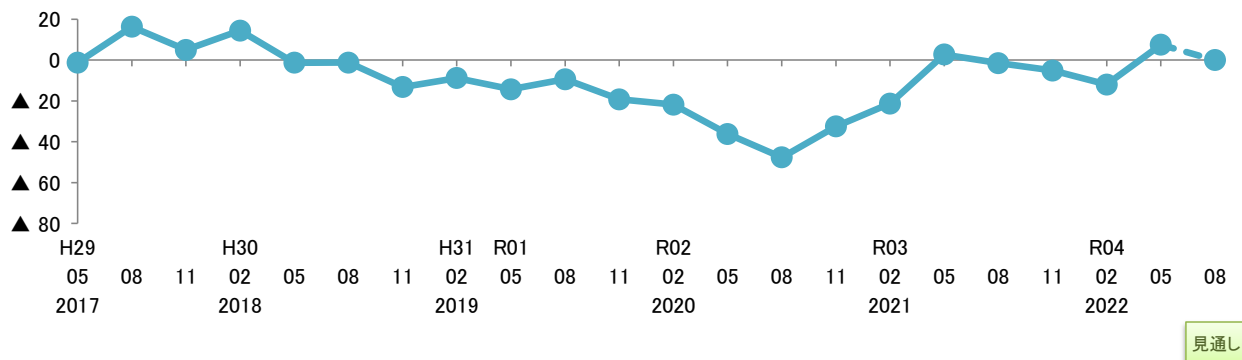
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 03. 05 (n=53)	▲ 20.7	(28.4)	▲ 54.5	▲ 22.2	▲ 27.3	▲ 7.7	▲ 22.2
R 03. 08 (n=56)	5.4	(26.1)	▲ 30.2	0.0	9.1	7.1	0.0
R 03. 11 (n=49)	2.0	(▲ 3.4)	▲ 17.9	▲ 22.2	5.0	14.3	0.0
R 04. 02 (n=44)	▲ 18.1	(▲ 20.1)	▲ 24.5	▲ 33.3	▲ 11.8	▲ 18.2	▲ 14.3
R 04. 05 (n=54)	1.8	(19.9)	▲ 43.1	▲ 10.0	28.6	▲ 40.0	25.0
前回調査比	-	-	-	(23.3)	(40.4)	(▲ 21.8)	(39.3)
先行き見通し	▲ 25.9	-	-	▲ 40.0	▲ 19.1	▲ 33.3	▲ 12.5
今回調査比	(▲ 27.7)	-	-	(▲ 30.0)	(▲ 47.7)	(6.7)	(▲ 37.5)

⑤ 庄内田川

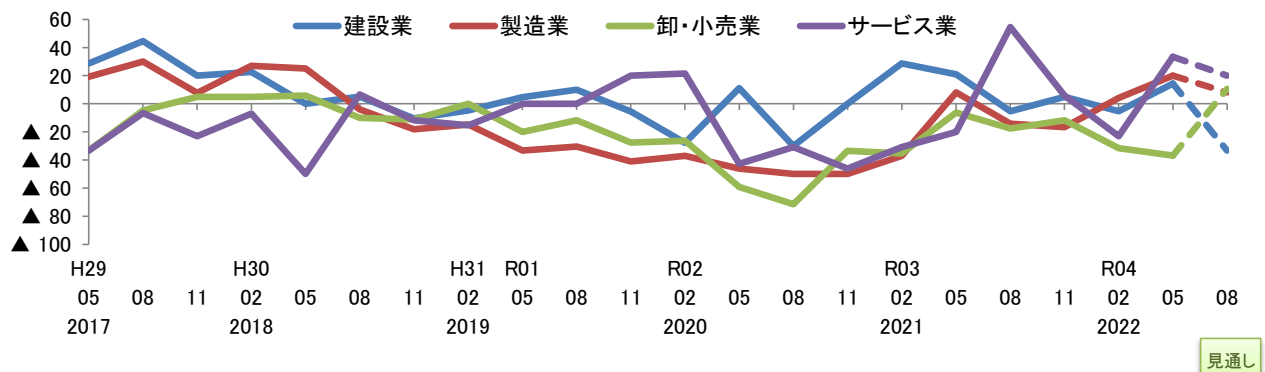
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 7.5（前回調査比 19.5 ポイント上昇）と 4 期ぶりに改善となり、プラスに転じた。業種別にみると、卸・小売業で悪化したものの、建設業、製造業、サービス業で大幅に改善となった。建設業とサービス業では D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が 0.0（今回調査 7.5 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

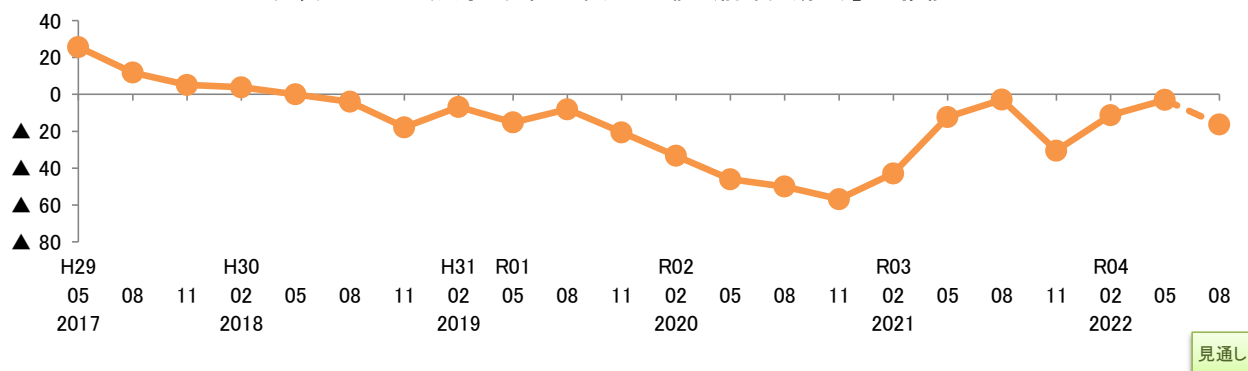
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 05 (n=75)	2.7	(24.0)	▲ 41.3	21.0	8.0	▲ 6.3	▲ 20.0
R 03. 08 (n=68)	▲ 1.5	(▲ 4.2)	▲ 17.4	▲ 5.3	▲ 14.3	▲ 17.7	54.5
R 03. 11 (n=79)	▲ 5.1	(▲ 3.6)	▲ 10.3	4.8	▲ 16.7	▲ 11.8	5.9
R 04. 02 (n=75)	▲ 12.0	(▲ 6.9)	3.8	▲ 5.3	4.1	▲ 31.6	▲ 23.1
R 04. 05 (n=80)	7.5	(19.5)	▲ 40.0	14.3	20.0	▲ 36.8	33.3
前回調査比	-	-	-	(19.6)	(15.9)	(▲ 5.2)	(56.4)
先行き見通し	0.0	-	-	▲ 33.3	8.0	10.5	20.0
今回調査比	(▲ 7.5)	-	-	(▲ 47.6)	(▲ 12.0)	(47.3)	(▲ 13.3)

⑥ 庄内飽海

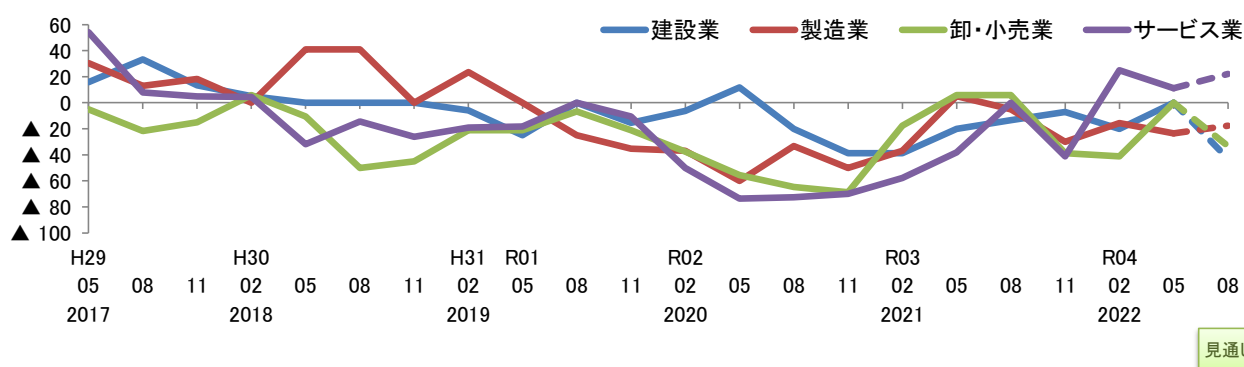
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲3.0（前回調査比 8.3 ポイント上昇）と 2 期連続で改善となった。業種別にみると、建設業と卸・小売業は大幅に改善、製造業とサービス業は悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.4（今回調査比 13.4 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 03. 05 (n=73)	▲ 12.3	(30.6)	▲ 42.8	▲ 20.0	5.0	5.9	▲ 38.1
R 03. 08 (n=69)	▲ 2.9	(9.4)	▲ 15.1	▲ 13.3	▲ 5.0	5.9	0.0
R 03. 11 (n=69)	▲ 30.5	(▲ 27.6)	▲ 20.3	▲ 7.1	▲ 30.0	▲ 38.8	▲ 41.1
R 04. 02 (n=71)	▲ 11.3	(19.2)	▲ 8.7	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 41.2	25.0
R 04. 05 (n=67)	▲ 3.0	(8.3)	▲ 22.5	0.0	▲ 23.5	0.0	11.1
前回調査比	-	-	-	(20.0)	(▲ 7.8)	(41.2)	(▲ 13.9)
先行き見通し	▲ 16.4	-	-	▲ 42.9	▲ 17.6	▲ 33.3	22.2
今回調査比	(▲ 13.4)	-	-	(▲ 42.9)	(5.9)	(▲ 33.3)	(11.1)

II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

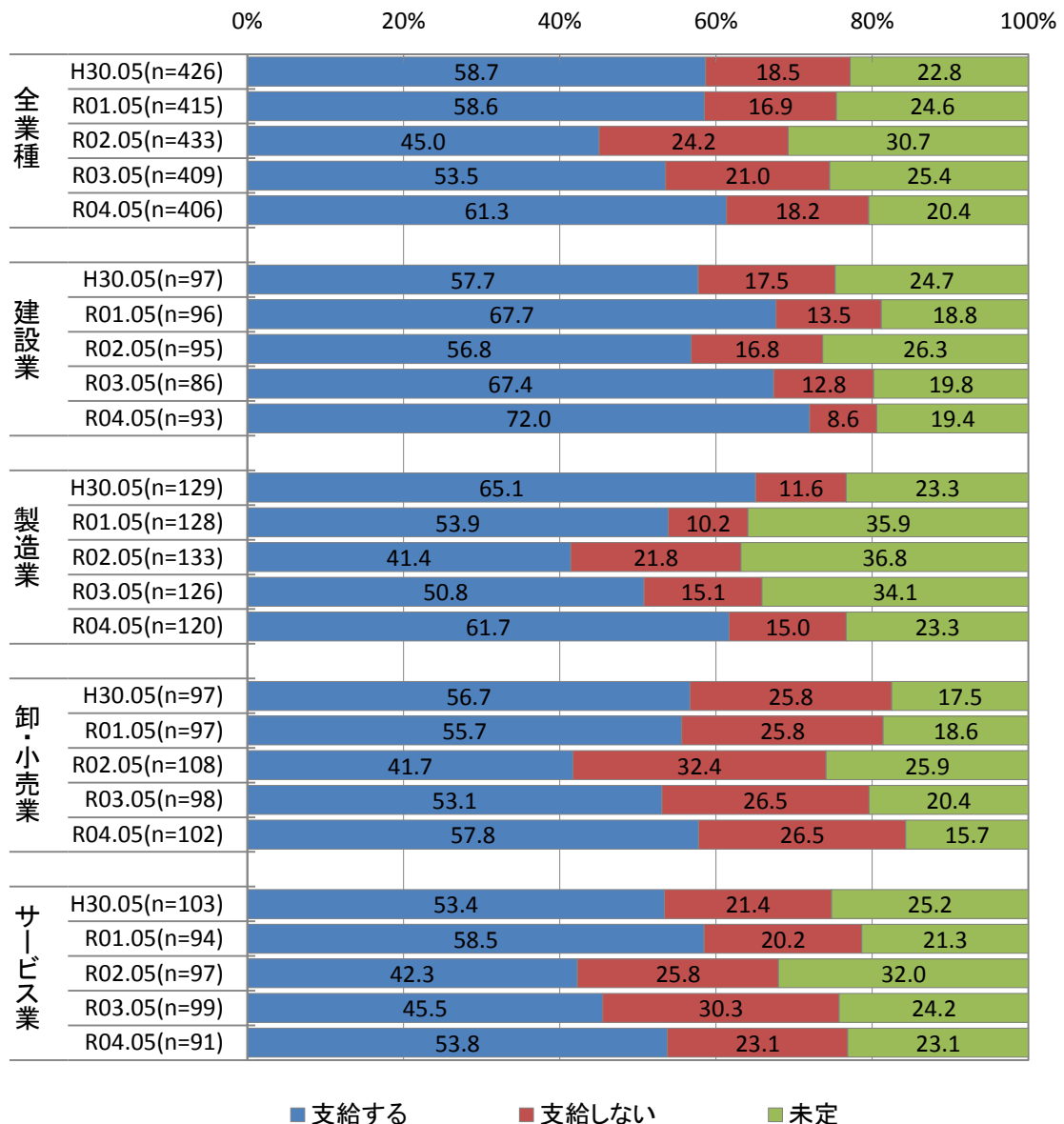
1. 夏季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

夏季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 61.3% と、前年に比べ 7.8 ポイント上昇し、6 割を上回った。

業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 72.0%（前年比 4.6 ポイント上昇）、製造業が 61.7%（前年比 10.9 ポイント上昇）、卸・小売業が 57.8%（前年比 4.7 ポイント上昇）、サービス業が 53.8%（前年比 8.3 ポイント上昇）となった。

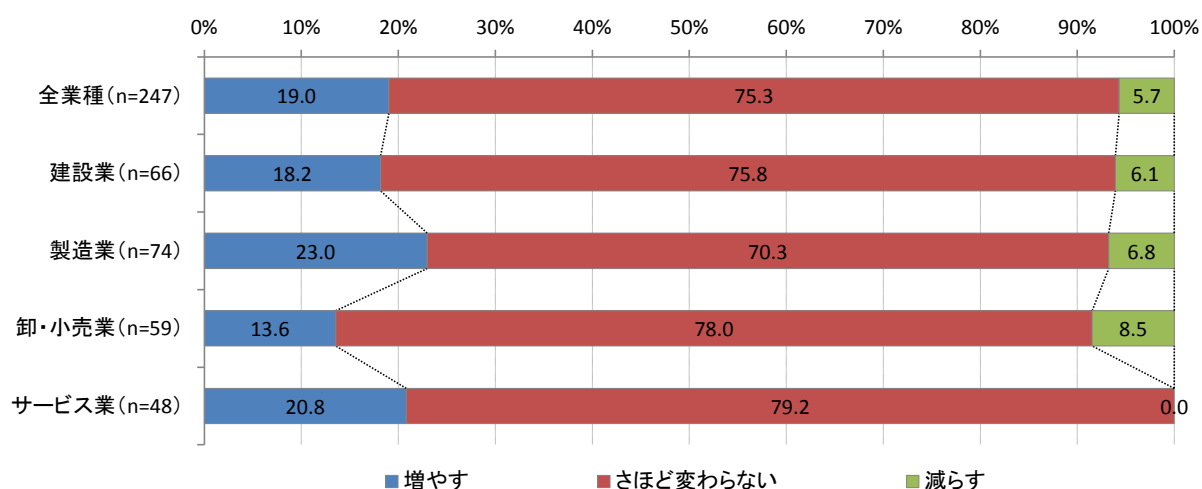
図表 25 業種別 夏季ボーナス支給動向の推移



今季「支給する」と回答した企業に対し、前年夏季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業が 75.3%と最も多く、次いで「増やす」が 19.0%、「減らす」は 5.7%となった。

業種別にみても、すべての業種で「さほど変わらない」が最も多くなっており、「増やす」と回答した企業では卸・小売業が 13.6%と、他の 3 業種に比べてやや低い割合となっている。なお、「減らす」と回答した企業が、サービス業では 1 社もなかった。

図表 26 業種別 夏季ボーナスを支給する企業の方針

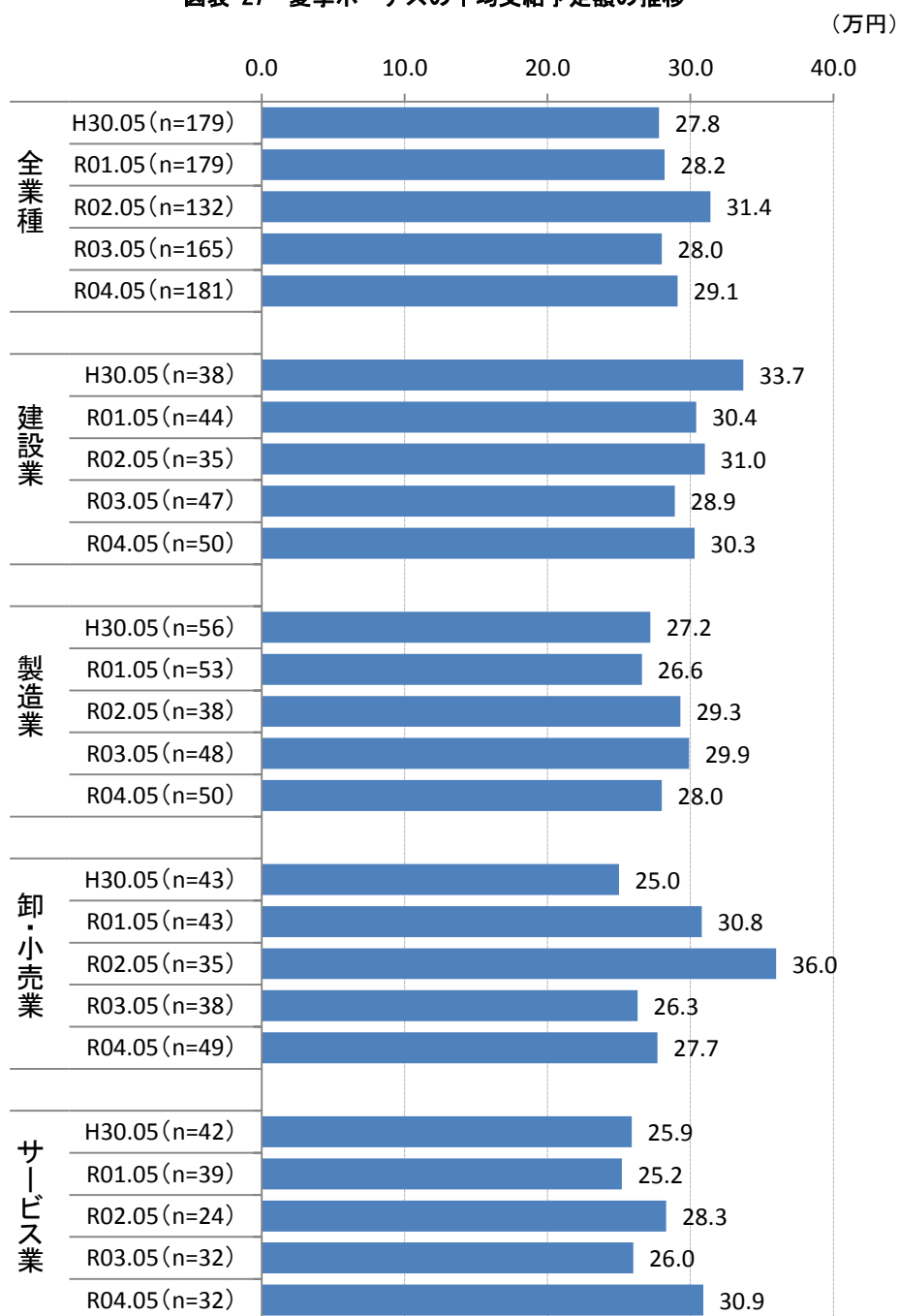


(2) 支給予定額

夏季ボーナスの支給予定額は、全業種平均で 29.1 万円となり、前年から増加となった。

業種別にみると、製造業で減少（前年比 1.9 万円減少）、建設業で前年比 1.4 万円増加、卸・小売業で 1.4 万円増加、サービス業で 4.9 万円増加と、3 業種で増加となった。

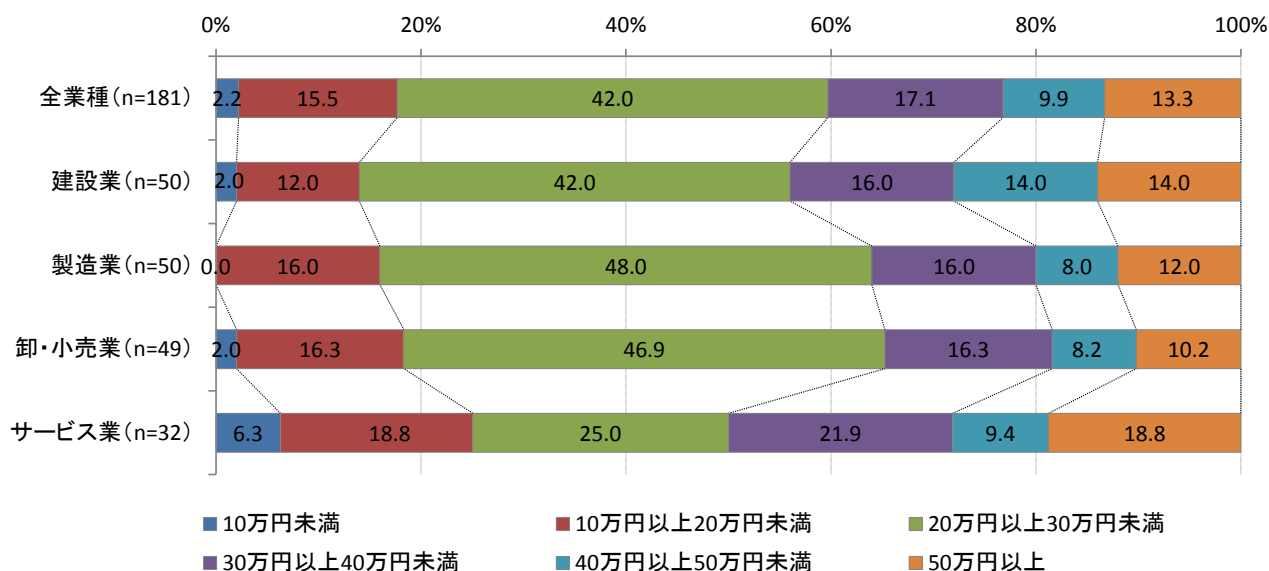
図表 27 夏季ボーナスの平均支給予定額の推移



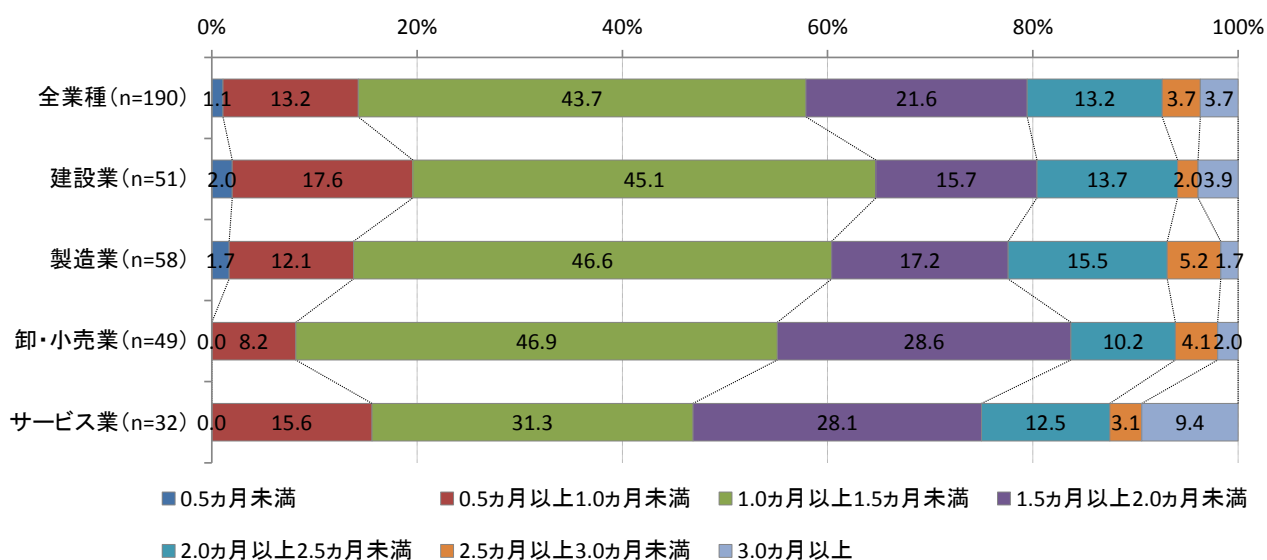
平均支給予定額は、全業種でみると「20 万円以上 30 万円未満」が最も多く、42.0%となっている。

平均支給予定月数は、全業種でみると「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」が最も多く、43.7%となっている。

図表 28 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定額



図表 29 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定月数

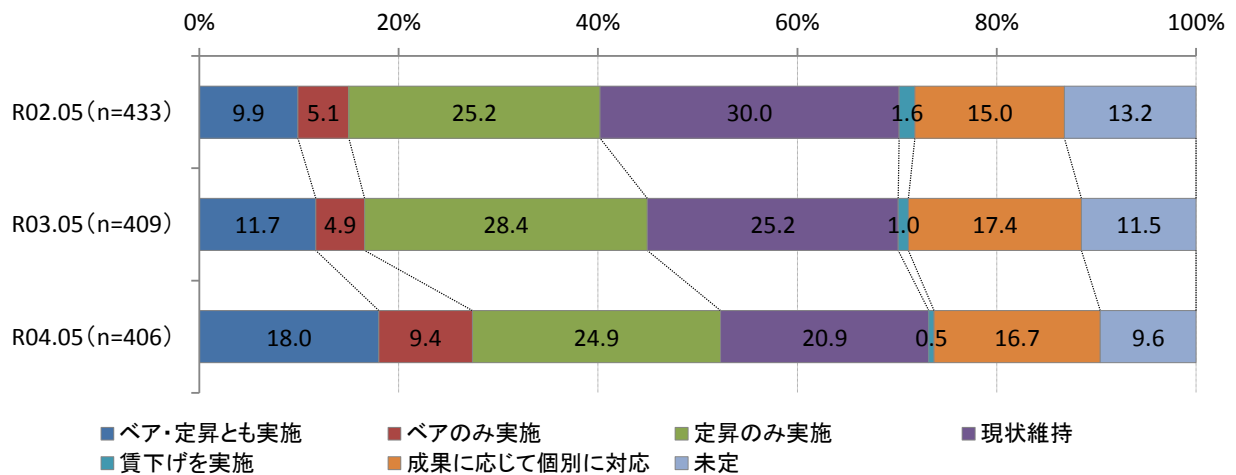


2. 春季以降の賃金改定動向について

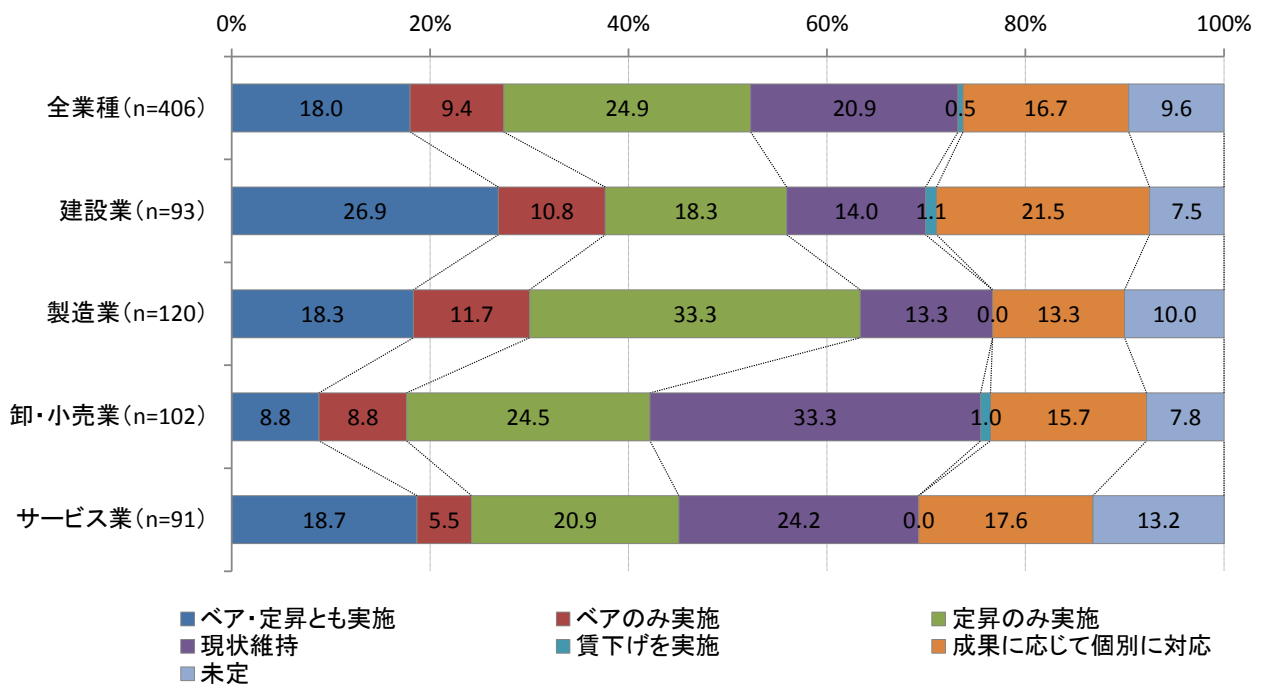
令和 4 年 4 月以降の賃金改定動向（ベースアップや定期昇給を実施する（した）か）を尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」＋「ベアのみ実施」＋「定昇のみ実施」）は、全業種で 52.3%と前年に比べて 7.3 ポイント上昇し、5 割台となった。

業種別にみると、賃上げを実施する（した）企業の割合は製造業で 63.3%と他業種に比べて最も高く、以下は建設業（56.0%）、サービス業（45.1%）、卸・小売業（42.1%）の順となっている。

図表 30 全業種 賃金改定動向の推移



図表 31 業種別 賃金改定動向

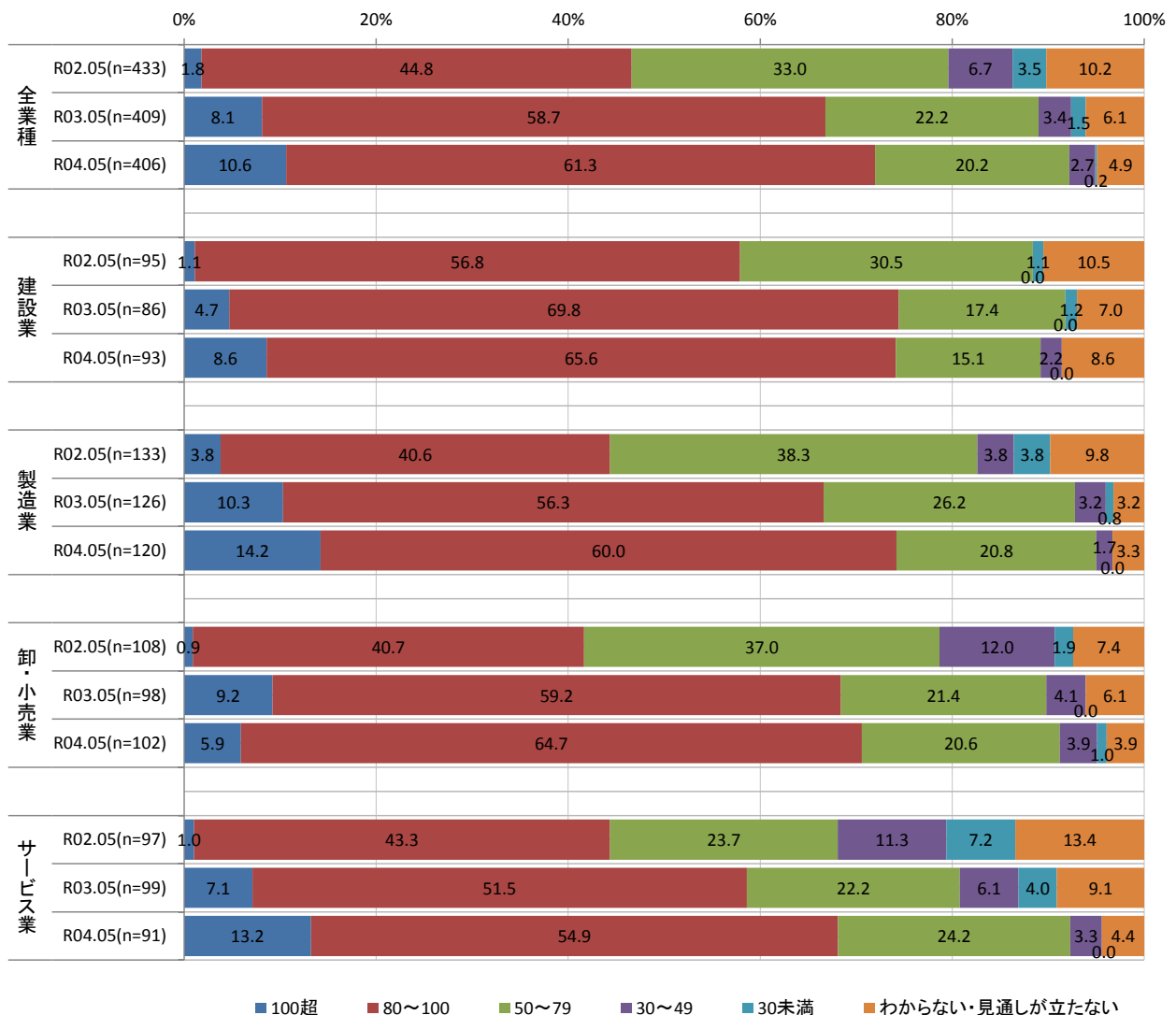


3. 新型コロナウイルス感染症の事業への影響について

新型コロナウイルス感染症の事業への影響について、事業活動全体における平常時（コロナ禍前）の経営状況を 100 とした場合の今年度の業績見通しをたずねたところ、全業種でみると「80～100」が 61.3%と最も多く、次いで「50～79」が 20.2%となっている。

業種別にみてもすべての業種で「80～100」が最も多くなっている。なお、平常時の 3 割未満（「30 未満」）とする回答は卸・小売業の 1.0%のみであり、その他の 3 業種では 1 社もなかった。

図表 32 業種別 新型コロナウイルス感染症の事業への影響（平常時の経営状況＝100 とした場合）



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	22	35	44	52	153
村山北部	20	32	17	16	85
最 上	21	18	10	17	66
置 賜	23	27	25	12	87
庄内田川	29	37	28	28	122
庄内飽海	33	32	31	36	132
合 計	148	181	155	161	645

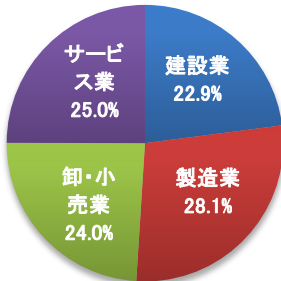
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	18	25	28	36	107
村山北部	11	21	14	8	54
最 上	19	11	8	6	44
置 賜	10	21	15	8	54
庄内田川	21	25	19	15	80
庄内飽海	14	17	18	18	67
合 計	93	120	102	91	406

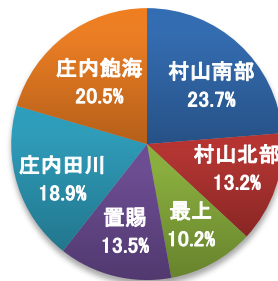
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	81.8	71.4	63.6	69.2	69.9
村山北部	55.0	65.6	82.4	50.0	63.5
最 上	90.5	61.1	80.0	35.3	66.7
置 賜	43.5	77.8	60.0	66.7	62.1
庄内田川	72.4	67.6	67.9	53.6	65.6
庄内飽海	42.4	53.1	58.1	50.0	50.8
合 計	62.8	66.3	65.8	56.5	62.9

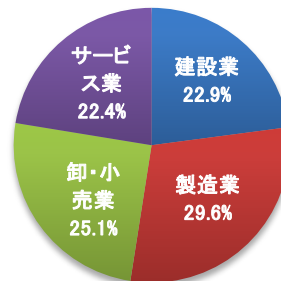
サンプル割合（業種別）



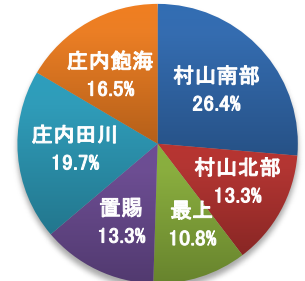
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 4 年 5 月 2 日 (月) ～ 16 日 (月)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社 フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-2 1 荘銀山形ビル 8 F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : <https://www.fir.co.jp/>